



デジタル通貨って？

◆現金を電子データ化／日銀が実証実験開始

Q－さまざまな分野で紙からデジタルへの転換が進んでいるけど、デジタル通貨もその流れかな。

A－通貨には「モノやサービスといった価値の交換、支払・決済手段」などの機能があり、「紙幣や貨幣」といった現物が基本的な形です。最近はSuicaなどの電子マネーのように電子的な取引が多くなっていますが、これらも最終的には現物に交換・変換が可能です。

デジタル通貨のうち中央銀行デジタル通貨は、中央銀行が紙幣や貨幣といった法定通貨そのものをデジタル化して発行するものです。国が事業者となって信頼性の高い「〇〇Pay」といった仕組みを導入する、と例えるとイメージしやすいかもしれませんね。



Q－中国の「デジタル人民元」のニュースを見たことがあるわ。

A－中国は来年の北京五輪での利用を目指し「デジタル人民元」の実証実験を加速させています。日本では、日銀が「現時点では発行する計画はない」としていますが、将来に備えて今年4月から「デジタル円」の実証実験を始めました。

Q－将来的に「1万円札」や「500円玉」がなくなるの。

A－デジタル円が普及して現金の流通が減ってしまうと、スマホを持っていない人やスマホの扱いが苦手な人は支払いに困ることになりそうですが、日銀は「現金に対する需要がある限り、現金の供給について責任をもって続けていく」としています。ただ、スマホなしでは買い物がしにくくなる時代が来るかもしれません。

Q－ほかにも変わることは。

A－デジタル円は取引記録が残るという特徴があります。現金に代わって普及すると、国としてはマネーロンダリング（資金洗浄）や脱税などの防止が期待でき、個人としては納税などの手続きが楽になるとみられています。でも、すべての取引記録が残ると“へそくり”もできなくなりそうですね。

（北陸経済研究所の米屋信弘が解説しました。随時掲載します）